

折れたポプラよ

(平成十六年度寮歌)

高橋直樹君 作歌

山口駿君 作曲

一

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす
酒注ぎ交わし乾した夜の
見上げた月の傍らで
おまえの匂いが映らない
心配せなや友達よ
永久に変わらぬ継いでやる
たとえこの世が変われども
俺や寮友らが歌うだろう
生命の継ぎ目が終われども
心配せなや友達よ
お前は此処に生きている

二

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす
緑が踊る夏の日も
茜に溶ける秋の日も
同じ生命を供にした
肩を組もうぞ友達よ
俺とお前は同じ土
側になくともその根が
歌声や思いを繋ぐだろう
その身朽ちゆく運命ども
肩を組もうぞ友達よ
次代がお前を芽吹くだろう

三

折れたポプラよ

おまえは何を言わんとす
別れの雪を踏みしめて
固め歩んだ迪の未来
春の色する夢なれや
供に称えん友達よ
思うは日々のいたずらか
過ぎせる時間の限るに
尽きぬ涙は言足りず
見つめる春は違えども
供に称えん友達よ
六華が我等照らすかな